



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：継続するイスラエル軍とガザの武装勢力の衝突

7月7日夜に開始されたイスラエル軍のガザに対する作戦は14日も継続している。イスラエル軍の空爆を主体とする攻撃で、ガザのパレスチナ人約170人が死亡、負傷者は1000人を越えた。13日には、イスラエル海軍の小部隊が、ガザの海岸から上陸してロケット弾発射台を破壊したと報道されている。イスラエル軍の部隊がガザに入ったのは、今回の作戦では初めてである。イスラエル軍は、イスラエルと隣接するガザ北部の住民に、13日の昼までに同地域から退避するようビラと電話で警告した。報道では、数千ないし1万7000人の住民が避難した。イスラエル軍は、約4万人の予備役兵士を招集して、兵力を増強している。13日、イスラエル治安閣議は、ガザ付近に配置された陸軍部隊の増強を継続するとした。

ガザのハマース、イスラーム聖戦機構などによるロケット弾攻撃の勢いも衰えていない。13日までに、ガザから約940発がイスラエル側に打ちこまれたと報道されている。イスラエル南部への攻撃が主体だが、中部のテルアビブ、エルサレム、北部のハデラなどへの長距離ロケット弾攻撃も頻発している。12日には、西岸のベツレヘム、ラマラ近郊にロケット弾が着弾した。一方、イスラエル軍のロケット弾迎撃システムがテルアビブやエルサレムなど主要都市の防衛で効果をあげている。今のところイスラエル側に死者はなく、ロケット弾の直撃によるガソリンスタンドの炎上などで約5名が負傷しているのみである。

国連安保理は、12日、イスラエルとハマースに、暴力を停止し、2012年11月の停戦合意を遵守するよう声明を出した。米国のケリー国務長官は、ネタニヤフ首相と何度か電話会談をして、停戦仲介の用意があることを表明した。ハマースと接触のあるエジプトやカタルが停戦を仲介していると報道されている。イスラエル側のメディアは、イスラエル政府は停戦協議を行う用意を表明しているが、ハマースが協議を拒否していると報道している。アラブ連盟の緊急外相会議が14日、カイロで開催予定である。

評価

ガザの武装勢力とイスラエル軍との暴力連鎖の最大の被害者は、イスラエルとガザの一般市民である。国際社会の最大の関心は、双方の一般市民への被害拡大の防止である。停戦を仲介する動きは、アラブ諸国、国連、欧米諸国などで開始されているが、まだ限定的である。エジプト政府の仲介が期待されるが、ガザのハマースを敵対視しており、2012年秋の衝突の際のムルシー前政権ほど積極的に動いていないようだ。

最大のポイントは、イスラエル軍が陸軍部隊をガザに送りこむかどうかである。イスラエル側の報道では、空軍司令官は、空爆で十分な結果を出すことができると主張しているが、政府

と軍の首脳らの間では、地上部隊を投入しないとハマースが保有するロケット弾などを十分に破壊できないとの考えが強いようだ。イスラエル軍がガザ侵攻作戦を実施すれば、ガザ住民の死傷者が増加し、イスラエルが国際社会から厳しい非難を受けることは避けられない。ネタニヤフ政権は、今のところ地上部隊の投入には慎重である。

その最大の理由は、イスラエル側にはまだ死者は出ていないためである。またテルアビブやエルサレムなどの主要都市が頻りにロケット弾攻撃を受けているが、効果的に迎撃されている。政府も国民もまだ冷静さを保っている。しかし、イスラエル側の人的被害が増大すれば、イスラエルは、国際社会の非難を無視してでも、ガザへの陸軍部隊の投入を開始するだろう。

ハマースやイスラーム聖戦機構は、ガザ住民の被害を考慮せずに攻撃を継続している。ガザのハマース「政府」は、政権担当者としての能力がないためにガザの統治に失敗した。今や軍事闘争でも、ハマースはガザ住民を保護する責任を認識していないことを再度証明しつつある。アッバース大統領は、7月10日のパレスチナ・テレビでのコメントで、何のためのロケット弾攻撃かと疑問を呈した。同日、国連の潘事務総長は、ハマースを無責任と非難した。ハマースは、13日のイスラエル軍のガザ北部住民に対する退避警告を無視するよう要請したが、大勢の住民は、ハマースの指示を無視して逃げた。住民らは、これまでの経験でハマースが自分たちを守ってくれないことは学習済みだろう。今回の戦闘がどのような形で終わるとしても、ハマースは「勝利」を演出し自画自賛するだろうが、その「勝利」が、ガザでのハマースの威信を高めることはないだろう。

(中島主席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799